

大島稔名誉教授略歴

(生年月日)

1951年11月15日

(学 歴)

1975年 3月31日 小樽商科大学商学部経済学科卒業

1981年 3月32日 北海道大学大学院文学研究科修士課程（言語学）修了

(学 位)

文学修士（北海道大学）

(職 歴)

1981年 4月 1日 小樽商科大学短期大学部講師

1984年 4月 1日 小樽商科大学短期大学部助教授

1991年10月 1日 小樽商科大学言語センター助教授

1993年10月 1日 小樽商科大学言語センター教授

2007年10月 1日 言語センター長（～2010年 3月31日）

2015年 4月～2017年 3月 小樽商科大学特任教授

2017年 3月31日 小樽商科大学 退職

2017年 6月 1日 小樽商科大学名誉教授

(海外派遣)

2001年 3月21日～2003年 1月20日

カムチャッカ半島先住民の伝統的生業に関する生態学・民俗学・言語学的
調査研究（ロシア）

(研究分野)

言語学, 言語人類学

(担当科目)

一般英語, 英語学概論, 言語学概論, 学術英語 (大学院), 異文化コミュニケーションの基礎 (大学院)

大島稔名誉教授研究業績表

既刊業績リスト（年代順）

- 1) 1981年7月 「アリユート」, 『北海道大百科事典』, 97-98, 北海道新聞社
- 2) 1982年3月 「アリウト語における派生接尾辞と格の付与について」『言語研究』第81号, 131-134, 日本言語学会
- 3) 1982年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅰ（旭川地方）』, 渡辺仁, 西本豊弘, 大島稔, 切替英雄共著, 北海道教育委員会
- 4) 1982年10月 “On Causative and Transitive Constructions in Aleut, Eskimo and Ainu.” 『人文研究』第64集, 201-216, 小樽商科大学
- 5) 1982年12月 「世界のことば・こぼれ話：アリユート語」, 『翻訳の世界』12月号, 8, 日本翻訳家養成センター
- 6) 1983年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅱ（白老・旭川地方）』, 渡辺仁, 西本豊弘, 大島稔, 切替英雄, 篠崎俊幸, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 7) 1984年3月 「アリユートの海獣猟と語彙」, 『人文研究』第67集, 53-73, 小樽商科大学
- 8) 1984年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅲ（静内地方）』, 渡辺仁, 西本豊弘, 大島稔, 切替英雄, 篠崎俊幸, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 9) 1984年3月 “Use of Sea Mammals by Akutan Akeuts” The Qaluyaarmiut 2: An Anthropological Survey of the Southwestern Alaska Eskimos, 61-66, Department of Behavioral Science, Faculty of Letters, Hokkaido University
- 10) 1984年 ブックレット「静内町アイヌ民俗資料館」: 英文翻訳, 静内町教育委員会
- 11) 1985年3月 「アリユート語の語構成---派生接尾辞---について」, 『北方文化研究』第17号, 193-204, 北海道大学文学部附属北方文化研究施設
- 12) 1985年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅳ（静内・浦河・様似地方）』, 渡辺仁, 西本豊弘, 大島稔, 切替英雄, 篠崎俊幸, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 13) 1986年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅴ（網走・釧路地方）』, 渡辺仁, 西本豊弘, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 14) 1986年3月 “Vocabulary of Beach Combing by Umnak Aleuts.” The Qaluyaarmiut 3: An Anthropological Survey of the Southwestern Alaska Eskimos, 43-48, Department of Behavioral Science, Faculty of Letters, Hokkaido University
- 15) 1986年5月 「アリユートの生業と語彙の構造」, 日本民族学会, 第24回研究大会研究発表抄録, 59-60, 日本民族学会第24回研究大会事務局
- 16) 1986年6月 「アリユートの生業と語彙」, 『紀要』33号, 100-105, 早稲田大学語学教育研究所
- 17) 1987年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅵ（十勝・網走地方）』, 渡辺仁, 西本豊弘, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 18) 1987年3月 （翻訳）アルフレッド・F・マイエヴィッチ「プロニスワフ・ピウス

- ツキの『アイヌ語及びフォークロア研究資料』（最終報告）, 『国立民族博物館研究報告』別冊5号, 295-301, 国立民族学博物館
- 19) 1987年3月 (共著) 言語・音楽班「B. ビウスツキのろう管の録音内容」, 『国立民族博物館研究報告』別冊5号, 207-266, 国立民族学博物館
 - 20) 1988年2月 「環境と言語：アリュート語に表れた環境観（陸と海）」, 『北方民族文化シンポジウム』北太平洋圏における海への適応, 105-108, 網走市
 - 21) 1988年3月 「アリュートの狩猟・漁撈活動と関連語彙覚書」, 『北方文化研究』第19号, 97-111, 北海道大学文学部付属北方文化研究施設
 - 22) 1988年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅶ（沙流・十勝地方）』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
 - 23) 1988年3月 「アサバスカ・イーヤック・トリンギット語族」(157), 「アリュート語」(508-516), 「ウィチタ語」(741-742), 「ウニベゴ語」(743-744), 「ウイントゥ語族」(746-747), 「オジブエ語」(977), 「オセージ語」(1058), 「オマハ語」(1070-1071), 「クイリュート語」(1434-1436), 「クチン語」(1457-1458), 「クータナイ語」(1459-1460), 「クリー語」(1511-1512), 「クロウ語」(1557-1558), 「クワキートル語」(1563-1566), 「コアウィルテコ語族」(1654), 「コマンチ語」(1743-1744), 「コユークン語」(1753-1755), 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典：世界言語編（上）』, 三省堂
 - 24) 1989年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅷ（鶴川・有珠地方）』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
 - 25) 1989年7月 「アリュートの言語資料より見た民族接触に関する諸問題」, 北方言語・文化研究会編『民族接触－北の視点から』, 88-99, 六興出版
 - 26) 1989年9月 「サリナ語」(103-104), 「シャイアン語」(196), 「シャスタ語族」(197), 「シユスワップ語」(225-226), 「シヨシヨニ語」(250-251), 「ショーニー語」(254-256), 「ズニ語」(340-341), 「セイリッシュ語族」(434-435), 「セネカ語」(441-443), 「セミノール語」(464-465), 「ダコタ語」(610-612), 「タナイナ語」(630-631), 「チェロキー語」(721-722), 「チカソー語」(723-725), 「チペワイアン語」(822-824), 「チマクアン語族」(824-825), 「チマクム語」(825), 「チュマシ語族」(933), 「チョクトー語」(982-983), 「ツィムシアン語」(1027-1031), 「ティワ語」(1131-1133), 「デラウエア語」(1168-1169), 「テワ語」(1176), 「トリンギット語」(1372-1377), 「トワ語」(1403-1404), 「トンブソン語」(1424-1425), 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典：世界言語編（中）』, 三省堂
 - 27) 1990年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅸ（千歳地方）』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
 - 28) 1991年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅹ（千歳地方）』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
 - 29) 1991年3月 宮岡伯人（研究代表者）編『北アメリカ原住民 言語人類学文献目録』（平成2年度科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書）, 北海道大学文学部
 - 30) 1991年8月 「ツンドラにトナカイ・チュクチを訪ねて」, 『言語』8月号, 大修館書店
 - 31) 1992年1月 「ヌートカ語」(6-8), 「パライフニフ語族」(271-273), 「ハルコメレム語」(304-306), 「ヒダツァ語」(467-468), 「フォックス語」(699-701), 「ブラックフット語」(769-772), 「ベラクーラ語」(940-943), 「ポーニー語」(1113-1115),

- 「ポモ語族」(1133-1136), 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典:世界言語編(下-1)』,三省堂
- 32) 1992年1月,「マリスイート語」(164-168),「ミクマック語」(252-253),「メノミニ語」(411-414),「モビール語」(470-471),「モホーク語」(471-474),「ユーク語族」(598-600),「ユロック語」(630-632),「リレット語」(894-895),「ルトゥアミ語」(943-946),「ワイヨット語」(1120-1122),「ワシヨ語」(1130-1132), 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典:世界言語編(下-2)』,三省堂
- 33) 1992年1月 「ツンドラ・チュクチの生活---人間とトナカイの関係」,『北海道民族学会通信』'91-1・2,北海道民族学会
- 34) 1992年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書:アイヌ民俗調査X I (道南東部)』,渡辺仁,大島稔,切替英雄,佐藤知己共著,北海道教育委員会
- 35) 1992年6月 「類別詞のタイプ:北アメリカ北西部を中心として」,宮岡伯人編『北の言語・類型と歴史』第3章,三省堂,109-127
- 36) 1992年 「環北太平洋文化圏におけるエスキモー・アリュート語,チュクチ語およびアイヌ語の民族言語学的位置づけ”Ethno-linguistic Positions of Eskimo-Aleut, Chukchi and Ainu in the North Pacific Rim”,北方諸民族芸能祭---民族芸能交流とシンポジウム International Symposium on the Comparative Studies of the Music, Dance and Game of Northern Peoples,北方諸民族芸能祭実行委員会(北海道教育大学),109-114
- 37) 1992年7月 (書評) “Vladimir, V. Lebenov & Yuri B. Simchenko, translated by Kimiko Saito 1990, Driving Reindeer: Natural World and Legend of Chukchi (original title, Achaiyavamskaya versna, Moskva, Mysl' 1983) Heibonsha” Northern Studies Association Bulletin No.1:5, Department of Cultural Anthropology, Institute for the Study of North Eurasian Cultures, Faculty of Letters, Hokkaido University
- 38) 1992年7月 (書評) “Miyaoaka, Osahito (ed.) 1992, 'Languages of the North Pacific Rim: Types and History', Sanseido”, Northern Studies Association Bulletin No.1:5, Department of Cultural Anthropology, Institute for the Study of North Eurasian Cultures, Faculty of Letters, Hokkaido University
- 39) 1993年3月,「異文化間コミュニケーション研究と教育への取り組み」,『言語センター広報 Language Studies』,小樽商科大学言語センター:7-12
- 40) 1993年3月 「ツンドラ・チュクチの子供たち」,Arctic Circle No.6:12-14,北海道立北方民族博物館友の会
- 41) 1993年3月 「極北の海洋民アリュートのことばと文化」,『1992年度小樽商科大学公開講座:講義録』:1-12,小樽商科大学
- 42) 1993年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書:アイヌ民俗調査X II (道東 地方)』,渡辺仁,大島稔,切替英雄,佐藤知己共著,北海道教育委員会
- 43) 1993年5月,「書評 岡田宏明・岡田淳子編著『北の人類学』,アカデミア出版,1992」,北海道民族学会通信 1992(1/2):3-4
- 44) 1993年6月 「カロック語」, 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典第5巻:世界言語編(補遺・言語名索引編)』,三省堂,113-118
- 45) 1994年2月 「アイヌ語の『語』の特徴」,北方言語研究者協議会編『アイヌ語の集い:知里真志保を継ぐ』,北海道出版企画センター:105-113
- 46) 1994年3月 “Prosody and Vowel Reduction in Eastern Aleut”, Osahito Miyaoaka

- Ed. Languages of the North Pacific Rim, Hokkaido University Publications in Linguistics No.7, Department of Linguistics, Faculty of Letters, Hokkaido University: 149-157
- 47) 1994年3月, 「チュクチ語西部方言: 音韻と語彙についての覚書」, 『人文研究』第87輯: 38-57, 小樽商科大学
 - 48) 1994年3月, 『アイヌ民俗文化財調査報告書: アイヌ民俗調査XⅢ (道南西部)』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
 - 49) 1995年3月, 「書評 岡田宏明著『北の文化誌---雪氷圏に生きる人々』, アカデミア出版, 1994」, 山田孝子著『アイヌの世界観---「ことば」から読む自然と宇宙』, 『北海道民族学会通信』1994(1・2): 7-8
 - 50) 1995年3月, 『アイヌ民俗文化財調査報告書: アイヌ民俗調査XⅣ (補足調査1)』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
 - 51) 1995年3月, 「日本語の音声」(平成6年小樽商科大学公開講座「外国語としての日本語---日本語教師をめざす人のために」, 『言語センター広報 Language Studies』第3号: 81-86, 小樽商科大学言語センター
 - 52) 1995年3月, 「日本語の語彙と意味」(平成6年小樽商科大学公開講座「外国語としての日本語---日本語教師をめざす人のために」, 『言語センター広報 Language Studies』第3号: 87-92, 小樽商科大学言語センター
 - 53) 1995年9月, 「アリュート (人)」, 梅棹忠夫監修・松原正毅・NIRA編『世界民族問題事典』: 89a-b, 平凡社
 - 54) 1995年9月, 「コリヤーク語比較方言音韻資料 (カラガとレスナヤ)」, 谷本一之編, Native Folk Festival-Symposium 《Art of Siberian Peoples》, [北方諸民族文化国際フェスティバル・シンポジウム報告] 71-79, 北海道教育大学
 - 55) 1995年10月, 《世界の言語》46 エスキモー語「アジアとアメリカをむすぶ言語」, 『波』1995年11月号: 50, 新潮社
 - 56) 1995年11月, 「書評・紹介 Knut Bergsland (comp.) Aleut Dictionary --- Unanagam Tunudgusii, Alaska Native Language Center, University of Alaska Fairbanks, 1994」, 『言語研究』第108号: 108-114, 日本言語学会
 - 57) 1995年11月, 「緑丘会アンカレッジ支部」, 『おたる緑丘』第6号: 2, 緑丘会小樽支部
 - 58) 1995年12月 “The Report on Current Trends of Linguistic Studies in the North for 1994-95 in Japan”, Northern Studies Association Bulletin No.4:9-10, Cultural Anthropological Division, Institute of for the Study of Northern Cultures, Faculty of Letters, Hokkaido University, Sapporo
 - 59) 1996年1月, 「後退音」(531), 「語幹接頭辞」(545), 「実相」(657), 「主要部標示型型と従属部標示型」(695), 「先名詞」(849), 「統語関係標識」(981), 「動作動詞と状態動詞」(1002-3), 「有生詞」(1365), 「4人称」(1379), 「連結辞」(1409), 「ウォーフ」(1443-4), 「クローバー」(1454), 「ベルグスラン」(1500), 亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典: 第6巻, 術語編』, 三省堂
 - 60) 1996年1月22日 「書評 スー・ハリソン/河島弘美訳『アリューション黙示録〈第一部〉母なる大地・父なる空』」, 『公明新聞』
 - 61) 1996年3月, 「異文化を題材とした英語速読の授業」, 『言語センター広報 Language Studies』第4号: 155-159, 小樽商科大学言語センター
 - 62) 1996年4月22日 「書評 スー・ハリソン/行方昭夫訳『アリューション黙示録〈第

- 二部) 姉なる月』, 『公明新聞』1996年4月22日
- 63) 1996年3月, 『アイヌ民俗文化財調査報告書: アイヌ民俗調査XV(補足調査2)』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 64) 1996年3月 'Subsistence and Culture of the Aleuts as Island Dwellers: Ethnographical Viewpoint,' (『民族誌から見たアリュートの生業と文化』), The Proceedings of the 10th International Abashiri Symposium: Peoples and Cultures in the Northern Islands Proceedings (第10回北方民族文化シンポジウム---北方の島嶼における人と文化---) 85-94, 財団法人北方文化振興協会, Association for the Promotion of Northern Cultures 網走
- 65) 1996年11月, 「アラスカの原住民たち---伝統と現実のはざまで」, FRONT, Nov. 1996, 33-35, 財団法人リバーフロント整備センター
- 66) 1997年3月, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己 共著『アイヌ民俗文化財調査報告書: アイヌ民俗調査16(補足調査3)』, 北海道教育委員会, 札幌
- 67) 1997年8月, "Subsistence Hunting and Hunting Rituals in Lesnaja Koryak in Kamchatka Peninsula" (カムチャッカ半島レスナヤ・コリヤクにおける生業狩猟と儀礼), 『人文研究』第94輯1-26, 小樽商科大学
- 68) 1997年12月, クヌート・ベルクスラン (大島稔訳) 「アリュート語の二重主語」, 宮岡伯人・津曲敏郎編, 『環北太平洋の言語』Vol.3. 63-79, 京都大学大学院文学研究科
- 69) 1997年12月, 「環北太平洋諸言語における名詞抱合の類型について」, 宮岡伯人・津曲敏郎編, 『環北太平洋の言語』Vol.3. 143-161, 京都大学大学院文学研究科
- 70) 1998年3月 『アイヌ民俗文化財調査報告書: アイヌ民俗調査XVII(補足調査4)』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 71) 1998年3月 (共編) O.Miyaoka & M.Oshima eds., *Languages of the North Pacific Rim* Vol.4, Graduate School of Letters, Kyoto University
- 72) 1998年3月, 「コリヤークのトナカイ飼育---コリヤークの儀礼と芸能」, 『周極地諸文化の比較研究---言語・生態・世界観』(平成7~9年度文部省科学研究費, 基盤研究(B)(1)研究成果報告書): 17-22, 煎本孝編, 北海道大学文学部
- 73) 1998年3月, (大島稔編著) 『カムチャッカ半島諸民族の生業・社会・芸能』(1996~1997年度文部省科学研究費補助金国際学術研究(学術調査)「カムチャッカ半島民族芸能調査/コリヤクとアリュート」課題番号08041002研究報告書), 小樽商科大学言語センター (Minoru Oshima (ed.) *Subsistence, Society and Folk Art of Indigenous Peoples in Kamchatka Region*, Center for Language Studies, Otaru University of Commerce, March, 1998)
- 74) 1998年3月, 「コリヤークのトナカイ飼育---1996年ベンジナ地区スラウトノイエにおける調査---」, 大島稔編, 『カムチャッカ半島諸民族の生業・社会・芸能』: 117-133, 小樽商科大学言語センター
- 75) 1998年3月, 「コリヤークの漁撈---1997年ベンジナ地区マニリ周辺における調査---」, 大島稔編, 『カムチャッカ半島諸民族の生業・社会・芸能』: 135-144, 小樽商科大学言語センター
- 76) 1998年5月 「最も動詞変化が複雑な言語」, 月刊『言語』, 大修館: 51-53
- 77) 1998年8月 「危機意識と言語文化政策---北方少数民族の事例から」, 伊藤章編著 『国民国家とエスニック・マイノリティの現在---言語文化政策を軸としたマジョリティ=マイノリティ関係論』(言語文化部研究報告叢書29号): 77-100, 北海道大

学言語文化部

- 78) 1998年9月 「極北の海洋民アリュートのことばと文化」(文化をうつすことば) 『アークテック・サークル』No.28: 15-17 財団法人北方文化振興教会(依頼原稿)
- 79) 1998年10月 「トナカイ遊牧民—カムチャツカのもうひとつの顔」, 『季刊・北方圏』第105号: 12-19: 社団法人北方圏センター(依頼原稿)
- 80) 1999年3月, 『アイヌ民俗文化財調査報告書: アイヌ民俗調査XⅧ(補足調査5)』, 渡辺仁, 大島稔, 切替英雄, 佐藤知己共著, 北海道教育委員会
- 81) 1999年3月31日 ‘Changes in Reindeer Breeding as Koryak Subsistence in Kamchatka’ 「カムチャツカ半島コリヤークの伝統的生業(トナカイ飼育)における変化」道立北方民族博物館編(Hokkaido Museum of Northern Peoples(ed.)), *The Proceedings of the 13th International Abashiri Symposium: Development and Environment in the North* (第13回北方民族文化シンポジウム---北方の開発と環境---) 33-40, 財団法人北方文化振興協会, Association for the Promotion of Northern Cultures, 網走
- 82) 1999年10月 「アペオイ」p36, 「イヨイキリ」p135, 「カムイ・プヤル」p406, 「キナ」p471, 「シントコ」p892の項目, 福田アジオ他編『日本民俗大辞典』(上), 吉川弘文館
- 83) 1999, “Етно-лингвистические особенности Ескимосов, Алеутов, Чукчей, Айнов, Проживающих в тихоокеанском регионе” (Ethnolinguistic Features of Eskimo, Aleut, Chukchee and Ainu living in the Pacific Ocean Region), Kamhatskij Gosydarstvennyj Pedagogicheskij Instiut, Камчатский Госыдартвенный Педагогический Институт, Доклады Международной научно-практической конференций “Культурно-историческое развитие народов Камчатки” (The Reports of the international scientific - practical conference “Cultural and Historical Development of the Peoples of Kamchatka”): 93-96, Петропавловск-Камчатский (Petropavlovsk-Kamchatskiy)
- 84) 2000年3月, 「チセ」p84, 「チセココカムイ」p84, 「ベウタンケ」p508の項目, 福田アジオ他編『日本民俗大辞典』(下), 吉川弘文館
- 85) 2000年3月 ‘Ainu cultural elements found in the cultures of indigenous peoples in Kamchatka’, 北海道立北方民族博物館編, *The Proceedings of the 14th International Abashiri Symposium: The Ainu and Northern Peoples: with Special Reference to the Subsistence Strategy*: 33-42, (第14回北方民族文化シンポジウム---北方諸民族文化のなかのアイヌ文化—生業をめぐる—), 財団法人北方文化振興協会, Association for the Promotion of Northern Cultures 網走
- 86) 2000年4月1日 「北米・アラスカの危機言語」(特集「危機に瀕する世界の少数言語のいま」), 文教大学広報室編, JOIN第36号: 36-39, 文教大学(依頼原稿)
- 87) 2000年5月 「アレウト」, 『世界民族事典』: 49, 弘文堂
- 88) 2000年6月20日 「アイヌとカムチャツカ先住民の漁撈文化に見る共通性」『アジア遊学』No.17, 2000年6月号: 74-87, 勉誠出版(依頼原稿) “Common features found in the fishing cultures of Ainu and indigenous peoples in Kamchatka,” *Intriguing Asia*, June 2000, Bensei Pub.Inc.: 74-87
- 89) 永山ゆかりと共訳, アナトル・F・スタルツェフ(2000)「アムール川流域および沿海地方におけるツングース諸民族の伝統的生業の現在と過去」, 『アジア遊学』No.17, 2000年6月号: 31-41, 勉誠出版

- 90) 永山ゆかりと共訳, ウラジミール・M・スターユルギン (2000) 「コリヤークの漁労—漁具と漁法」, 『アジア遊学』 No.17, 2000年6月号: 56-64, 勉誠出版
- 91) 永山ゆかりと共訳, エウドキーヤ・M・サドブニコワ (2000) 「イテリメン—伝統的生業の過去と現在」, 『アジア遊学』 No.17, 2000年6月号: 65-73, 勉誠出版
- 92) 2000年6月 「『闘』の意味—極北の狩猟民」 AQUALOG (アクアログ) No.67: 5~12 栗田工業株式会社
- 93) 2000年7月 'Two Traditional Stories of Bering Island Aleut,' O.Miyaoka (ed.), *Languages of the North Pacific Rim* Vol.5., 125-138, Graduate School of Letters, Kyoto University
- 94) 2000年10月 「下北半島の生業と民俗—その社会史的展望」, 鈴木延夫編『20世紀末の下北半島』(下北半島地域総合環境調査報告): 7-22, 助成財団センター
- 95) 2000年11月 AILA'99 Tokyo Organizing Committee (ed.), (2000), "Historical Typological Study of Ainu Language and Culture," *Selected Papers from AILA'99*, 388-395, Waseda University Press
- 96) 2001年2月 「流刑と革命の中での北方言語研究—ボゴラス」, 言語編集部編『言語別冊 言語の20世紀101人』, 22-23, 大修館書店
- 97) 2001年2月15日 「カムチャツカ先住民によるサケ資源の利用と管理」, 『民博通信』2001 No.91: 16-25, 国立民族学博物館
- 98) 2001年3月31日 「アリュート語テキスト分析試案」, 津曲敏朗編『環北太平洋の言語 第7号』, 71-86, 大阪学院大学情報学部
- 99) 2001年3月 "Animal Rituals of Indigenous People (Koryak) in Kamchatka" 道立北方民族博物館編, 『第15回北方民族文化シンポジウム---北方諸民族文化のなかのアイヌ文化—儀礼・信仰・芸能をめぐる—』: 21-23, 財団法人北方文化振興協会, 網走
- 100) 2001年5月 "Некоторые аспекты последних социальноэкономических изменений в оленеводстве коряков на камчатке," *Социоэкономические проблемы устойчивого развития территорий с уникальными и экстремальными природными условиями*: 20-23, Камчатский государственный педагогический университет, Администрация камчатской области, Камчатский научный центр, Петропавловск-Камчатский, 2001
- 101) 2001年10月 「特別鼎談 ラッコの道, ガラス玉の道」, 『月刊みんぱく』2001年10月号: 2-9, 千里文化財団 (大塚和義, 菊池俊彦共著)
- 102) 2002年2月 「カムチャツカ半島における水産資源の利用と管理」, 秋道智弥・岸上伸啓編『紛争の海』, 190-208, 人文書院
- 103) 2002年3月 「ロシア・カムチャツカ半島における水産資源の生業・利用・管理」, 岸上伸啓編, 平成11年度~平成13年度科学研究費補助金基盤研究A(2)研究成果報告書『先住民による海洋資源利用と管理: 漁業権と管理をめぐる人類学的研究』: 101-107, 国立民族学博物館・先端民族学研究部・岸上研究室
- 104) 2002年3月 「儀礼におけるアイヌとカムチャツカ先住民の関係」(第16回北方民族文化シンポジウム---北方諸民族文化のなかのアイヌ文化—文化交流の諸相をめぐる—) The 16th Abashiri Symposium: The Ainu and Northern Peoples: with Special Reference to Various Phases of Cultural Exchange., 財団法人北方文化振興協会, Association for the Promotion of Northern Cultures, 網走 Abashiri:1p
- 105) 2003年2月14日, 「カムチャツカ半島先住民のピーズ工芸」, 大塚和義編『北太平洋の先住民交易と工芸』(思文閣出版): 154-157

- 106) 2003年10月10日 「大国に翻弄された海洋民：アリュート」, 津曲敏郎編著『北のことばフィールド・ノート 18の言語と文化』:177-186, 北海道大学図書刊行会
- 107) 2003年3月25日 Minoru OSHIMA (2003), *Linguistic Materials of Bering Island Aleut: Dictionary and Texts/Материалы об алеутском языке на острове Беринга: словарь и тексты*, ELPR Publication Series A2-031: 348pp, Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University, Osaka, (in English and Russian)
- 108) 2003年10月19日 書評『『五つの心臓を持った神』(萱野茂著)』, 「ほっかいどうの本」2003年10月19日付け北海道新聞朝刊17頁
- 109) 2003年12月26日 「カムチャツカ半島先住民の漁業権と管理」岸上伸啓編『海洋資源の利用と管理に関する人類学的研究』(国立民族学博物館調査報告No.46) 179-196
- 110) 2004年1月30日 「産業化と集住化がもたらしたコリヤーク社会の変化」『第18回北方民族文化シンポジウム報告---北太平洋沿岸の文化-文化接触と先住民社会-』:7-10, 財団法人北方文化振興協会, 網走
- 111) 2004年7月9日 「コリヤークのトナカイ遊牧」, 北海道立北方民族博物館編『第19回特別展 北の遊牧民—モンゴルからシベリアへ—』47-51, 北海道立北方民族博物館
- 112) 2004年12月24日 「ツンドラにトナカイを追う—カムチャツカの遊牧民コリヤーク—」(特集 人と動物のあいだ3), 北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌『アークティック・サークル No.53』, 4-9, 財団法人北方文化振興協会, 網走
- 113) 2005年3月28日 「コリヤークのトナカイ遊牧に関する政治経済的考察—カムチャツカ州カラギンスキー地区を例に—」『第19回北方民族文化シンポジウム報告---北太平洋沿岸の文化-文化接触と先住民社会-』1-4, 財団法人北方文化振興協会, 網走
- 114) 2006年7月14日 「海岸コリヤーク文化の伝統と現代」『第21回特別展—環太平洋の文化I コリヤーク:ツンドラの開拓者たち』31-35, 北海道立北方民族博物館, 網走
- 115) 2010~2012年 小樽商科大学TOEIC e-learning教材
- 116) 2014~2015年 小樽商科大学Blended leaning教材
- 117) 2017年 小樽商科大学TOEIC e-learning教材 (Revised)